

装置の停止方法

□ 緊急時の停止方法

1. TSQ8000 側面にある電源スイッチを切ります。



この停止方法は装置にダメージを与え故障を招く恐れがありますので、緊急時のみ行うようにしてください。
ベントバルブ開閉は手動です。

2. Trace1310 の背面にある電源スイッチを切ります。



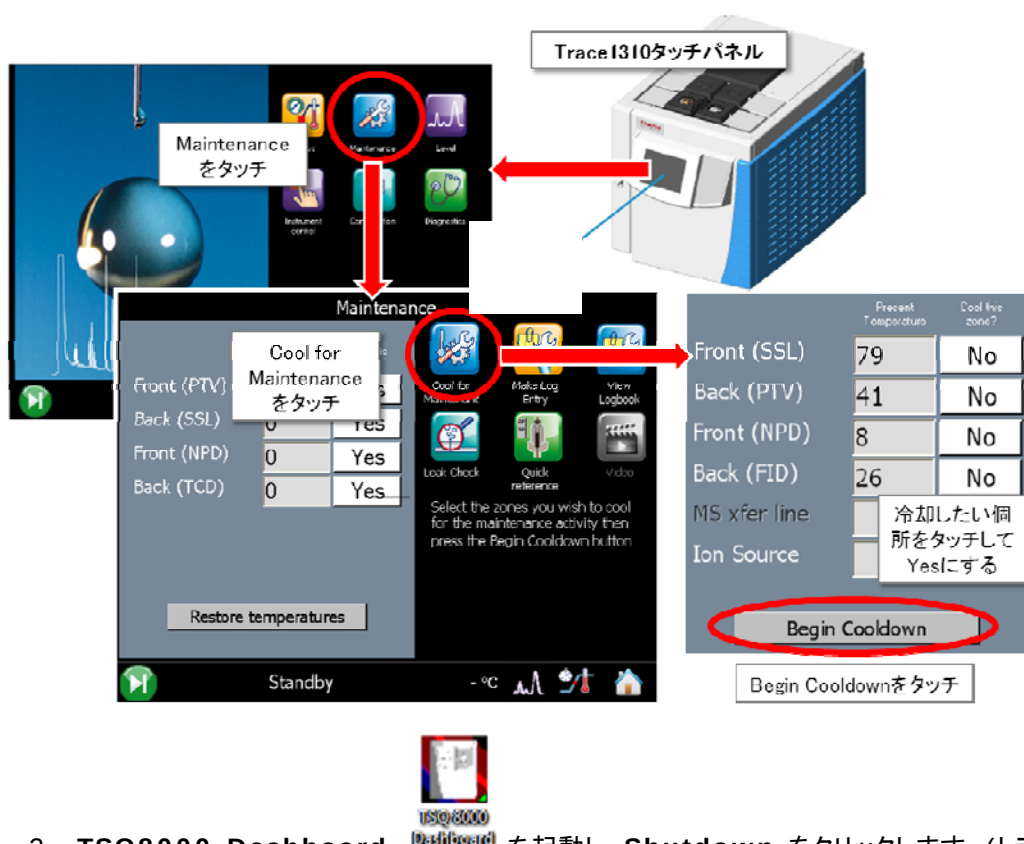
注入口が高温の状態や真空を引いた状態で電源を切るとカラムが劣化しますのでご注意ください。

3. TriPlus RSH の電源モジュールのスイッチを切ります。

□ 通常の停止方法

シャットダウンは各部の温度を下げてから、TSQ8000 → Trace1310 の順で行います。TSQ8000 が起動したまま(=真空状態のまま)で GC を停止するとカラムが劣化しますのでご注意ください。

1. **Trace1310** のタッチスクリーンで Maintenance > Cool for Maintenance > 冷却したい個所にタッチして Yes > Begin Coldown の順にタッチします
Trace1300 の場合は、正面にある Maintenance ボタンを 3 秒間押し続けると冷却が始まります。

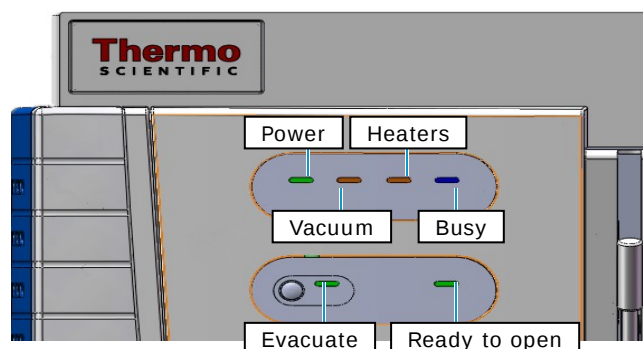


2. **TSQ8000 Dashboard** を起動し、**Shutdown** をクリックします。(トランスファーライン、イオンソースのヒーターがオフになり、ターボポンプ回転を減速します)
Vacuum と Heater の LED が消えます。
3. **TSQ8000 の PowerLED が黄色に点滅したら**、側面の電源スイッチを切ります。
カラム交換をする場合は、ベントバルブを緩めます。
4. **Trace1310 の注入口温度が 100℃以下になったら**、背面の電源スイッチを切ります。
5. TriPlus RSH の電源モジュールのスイッチを切ります

装置の起動方法

1. **TSQ8000** 側面にある電源スイッチを入れます。
前面パネルの Power LED が緑に点灯したことを確認します。
2. **Trace1310** の背面にある電源スイッチを入れます。タッチスクリーンが起動するのを確認します。**Trace1300** の場合は前面パネルの Power LED が緑に点灯したことを確認します。
3. **Trace1310** のタッチスクリーンで Instrument Control > Front/Back inlet を選択、Column Flow を表示して実測値が設定値に達しているか確認します。
Trace1300 の場合は Xcalibur の Trace1300 Status 画面で確認します。
4. **TSQ8000** の真空度と温度を確認します。十分な真空度に到達すると Vacuum の LED が緑に点灯します。到達するまでは LED はオレンジでゆっくり点滅しています。オレンジで速い点滅の場合、大きいリークがあることが疑われます。カラムナット、ベントバルブの緩みなどないか確認してください。また、温度が設定値に到達すると Heaters の LED が緑に点灯します。昇温中 LED はオレンジでゆっくり点滅しています。

TSQ8000 前面



5. TriPlus RSH の電源モジュールのスイッチを入れ、イニシャライズが完了することを確認します。